

審査員の技術的関心とプレゼンで考慮すべきポイント

ハッカソンの各審査員について、その専門分野や関心領域を踏まえ、プレゼンテーションで強調すべきポイントを整理します。審査員ごとのバックグラウンドを理解し、それに合わせて技術要素やアピール内容を調整することで、より好印象を与えられるでしょう。

佐藤 祥子（Sato Shoko） – THE BIGLE株式会社 代表取締役

- ・**経歴・専門:** 元フロントエンドエンジニアで、LINE社のDeveloper Successチームにて技術ブランディングや技術カンファレンス運営などDevRel分野を担当した経歴があります^①。現在はTHE BIGLE株式会社を創業し、**技術広報・技術コミュニティ支援の専門家**として活動しています^①。
- ・**関心技術・分野:** 開発者コミュニティの活性化、技術ブランディング、イベント運営など**エンジニア組織を盛り上げる取り組み**に強い関心があります^①。フロントエンド出身でもあり、**開発者体験やUI/UX**にも理解があります。
- ・**プレゼンでのアピール:** 佐藤さんには**組織やコミュニティへの波及効果**を意識してアピールしましょう。例えば「社内の意思決定を促進するAIエージェント」が**社内コミュニケーションやナレッジ共有をどう促進するか**、エンジニアの生産性や成長につながるかを強調すると響きます。技術的な細部よりも、その技術が**社内文化やチームワークをどう改善するか**にフォーカスすると良いでしょう。また、前職がフロントエンドエンジニアなので、**使いやすいUI/UXや開発者にとっての使い勝手**にも触れ、実際に社内で受け入れられる工夫を示すと評価が高まるはずです。

渡部 陽太（Yohta Watanabe） – アクセンチュア株式会社 / 株式会社ゆめみ CTO

- ・**経歴・専門:** モバイルアプリ開発のスペシャリストで、iOS/Androidのテックリードとして活躍後、ゆめみ社でCTO室を立ち上げ技術戦略を牽引してきました^②。**Flutterによるクロスプラットフォーム開発**の著書もあり^③、**モバイル全般（iOS/Android/Flutter）**が主な技術領域です^④。現在は**生成AIの技術開発**をリードしており、社内外で最新技術の導入を推進する立場にあります^③。
- ・**関心技術・分野:** **モバイルアプリ開発技術全般とFlutter**、そして昨今では**生成AIの活用**が大きな関心領域です^{③ ④}。新人研修や技術導入を手掛けた経緯から、**新技術（特にAI）の実プロダクトへの適用**にも知見があります。2026年には『Flutter×AI開発』に関する著書も予定されており、**アプリ×AIの融合**に熱意を持っています。
- ・**プレゼンでのアピール:** 渡部さんには**技術スタックの先進性とプロダクトへの実装可能性**を示しましょう。例えば、バックエンドにどんな言語やフレームワークを使い、モバイル連携が可能かなど具体的に言及します。**Flutterやモバイルアプリとの連携**があればぜひ触れ、クロスプラットフォームで社内意思決定エージェントを利用できる将来像を示すと関心を引けます。また生成AIを牽引している立場なので、**高度なLLMの活用**（例：社内データでカスタマイズした大規模言語モデルの利用など）や**プロンプト工夫**について具体例を出すと刺さります。単にAIを使ったというより、**どう新技術を取り入れプロダクト成長に繋げるか**（彼自身が新技術導入を推進してきた経緯があるため）を語ると、「技術革新と価値創出」を意識する渡部さんに好印象でしょう^③。

李 碩根 (Lee Suckgeun) – 株式会社松尾研究所 シニアデータサイエンティスト / SozoWorks株式会社 代表取締役

- **経歴・専門:** データサイエンスとAIの専門家で、フューチャーアーキテクト〜IBMを経て多数のAIプロジェクトをリードしてきました⁵。2023年から東大松尾研究室で**需要予測・因果推論・AIエージェント**など最先端プロジェクトを成功させ⁵、2025年には**AIエージェント特化の企業SozoWorks**を創業しています⁵。数理統計のバックグラウンドもあり、**AIの理論から応用まで精通**しています。
- **関心技術・分野:** **AIエージェントによる産業効率化**がキーワードで⁵、とりわけ**需要予測・因果探索**などビジネス課題解決型のAIに関心が深いです。また自身で「**MCP開発 (Model-Context-Protocol)**」に関する著書を執筆するなど、**大規模言語モデルの文脈制御やエージェントのフレームワーク**にも詳しいです。企業向けソリューションに長けているため、**エンタープライズ向けAI実装やデータ分析基盤**にも知見があります。
- **プレゼンでのアピール:** 李さんには**AIエージェントのコア技術とビジネスインパクト**の両面を示すことが重要です。例えば、「社内意思決定支援AI」がどのような**アルゴリズムで意思決定を支援する**のか（需要予測モデルを組み込んで先読みする、意思決定の因果関係を分析する等）を具体的に語ると、彼の専門領域に訴求します。加えて、**導入による業務効率の定量的な改善**（意思決定の時間短縮や精度向上の見込み値など）を示せれば、産業効率化を目指す姿勢⁶に共鳴するでしょう。また、技術面では**データ基盤やモデル管理**（オンプレミスかクラウドか、PythonライブラリやAIサービスの選定理由）など詳細に触れると、深い知見を持つ李さんからの突っ込みにも耐えうる印象を与えられます。

伴野 智樹 (Tomoki Banno) – 一般社団法人MA 理事 / フリーランス

- **経歴・専門:** リクルートホールディングスのMediaTechnologyLabで**サービス開発・オープンイノベーションのR&D**を担当し、その後フリーランスとして**アイデア創発のワークショップ**などに多数携わっています⁷。一般社団法人MA (Mashup Awards) では理事として毎年多くのアイデアソン・ハッカソンを企画運営し、**オープンイノベーションと共創**のスペシャリストです⁷。
- **関心技術・分野:** 特定の技術スタックというより、**新規サービス創出やプロトタイピング**、様々なAPIや最新テクノロジーを組み合わせる**マッシュアップ**に関心が高いです。アイデアソンを主導していることから、**アイデアの独創性やユーザ価値**にも敏感です。R&D出身なのでAR/VRやIoTなどメディア技術にも触れてきた可能性がありますが、何より「**技術を使って新しい体験を生み出すこと**」を重視するタイプと言えます。
- **プレゼンでのアピール:** 伴野さんには**ソリューションの独創性とワクワク感**をアピールしましょう。技術そのものの深さより、「**社内の大問題を解決する**」というテーマに対して**どれほどユニークなアプローチ**を取ったかが響きます。例えば、複数の技術を巧みに組み合わせているならその**マッシュアップの妙**を強調してください。加えて、**実際の利用シナリオを描くデモ**や、意思決定が劇的に改善される未来像を示すことで、伴野さんの重視する**体験価値**に訴求できます。また彼は多くのハッカソンを見てきているため、ありがちな解決策との差別化ポイント（どう既存の社内チャットボットと違うのか、など）も明確にしておくといいでしょう。**オープンイノベーション**の文脈では、将来的に社外展開や他企業との共創も視野に入れていると示唆するなど、スケールするアイデアであることを示せばベストです。

中井 悦司 (Etsuji Nakai) – Google Cloud Japan AIソリューションアーキテクト

- **経歴・専門:** 2016年からGoogle Cloudのソリューションアーキテクトとして活躍し、それ以前はLinuxディストリビューターのエバンジェリストや外資系ITベンダーでOSS系プロジェクトをリードするなど、**Linux/オープンソースとクラウドのプロ**です⁸。予備校講師の経歴も持ち、難解な技術をかみ砕いて伝える**技術解説者**でもあります。著書に「ITエンジニアのための機械学習理論入門」や

「Google Cloudで学ぶ生成AIアプリ開発入門」などがあり、**機械学習理論とクラウド実践**の双方に精通しています⁹。

- ・**関心技術・分野:** クラウドアーキテクチャ全般（特にGCP）、そして**機械学習・生成AIのインフラ活用**が主な関心領域です。Google Cloud上でのAI実装やMLOps、LLMの最新動向（GoogleのGeminiモデルなど）にも詳しく、社内外問わず**大規模システムでAIを運用するノウハウ**を持っています。またOSS文化にも根ざしているため、**オープンソースAIフレームワーク**やLinuxコンテナなどにも関心があります⁸。
- ・**プレゼンでのアピール:** 中井さんには**システムアーキテクチャとスケーラビリティ**の観点でアピールしましょう。例えば、**バックエンドがどう構成されクラウドで動いているか**（GCPならFirestoreやCloud Runの利用、AWSならそれ相当のサービス）を具体的に示すと、「なるほど、スケールや運用を考えているな」と伝わります。特にGoogle Cloudのサービス（BigQueryやVertex AIなど）を活用していれば言及し⁹、そうでなくても**コンテナ化・マイクロサービス化**などモダンな設計を説明すると良いでしょう。加えて、**機械学習モデルの学習プロセスや理論的裏付け**にも触れると、「機械学習理論入門」の著者である彼には刺さります。例えば「本エージェントは強化学習を用いて意思決定精度を向上させています」や「社内データをFine-tuningしており、誤答率〇%に抑えています」等、**データとモデルの扱い方**を論理的に述べると高評価に繋がります。要するに、中井さんは**“技術スタックが信頼でき、理にかなっているか”**を見る傾向が強いので、アーキテクチャ図を用意し運用面・理論面の質問に備えると安心です。

吉川 大央（Daio Yoshikawa） - クラスメソッド株式会社 Zennチーム ソフトウェアエンジニア

- ・**経歴・専門:** SierやSaaSスタートアップを経て2020年にクラスメソッド入社。複数のWebアプリ開発でテックリードを務め、仕様策定から開発までフルスタックに担当してきました。現在は**技術ブログプラットフォーム「Zenn」**の開発チームに所属し、新機能開発のほか**生成AIを用いたスパム検知**やサイトパフォーマンス改善を手がけています¹⁰。情報処理安全確保支援士やAWS認定資格も持ち、**セキュリティやクラウドにも強いWebエンジニア**です¹¹。
- ・**関心技術・分野:** **Webアプリケーション全般の技術**（フロントからバックエンドまで）に精通しつつ、直近では**生成AIの実用活用**に高い関心があります。特に自社サービスZennで大規模ユーザーデータを扱い、**AIによるコンテンツ品質向上（スパム検知など）**に取り組んでいるため、**AIモデルの実サービス組み込みやコンテンツの自動評価**といった領域に興味が深いです¹⁰。またAWSをはじめクラウド活用も日常的に行っており、**スケーラビリティやパフォーマンスチューニング**にもこだわりがあります。自身でnpm公開ツールを開発し多数のダウンロードを得るなど、**開発効率化ツールやDX**にも関心があります¹¹。
- ・**プレゼンでのアピール:** 吉川さんには**実サービス水準での完成度と品質管理**についてアピールしましょう。例えば、**パフォーマンス**（レスポンス速度やスループット）について最適化した点や、**スパム的な誤用を防ぐ対策**（権限管理や不適切な問い合わせ検知など）を施しているなら具体的に述べます。彼がZennで生成AIを使ってスパム投稿を90%削減した実績があるように¹⁰、**あなたのエージェントでも誤回答や暴走を防ぐ工夫**（プロンプト制御やフィルタリング）を説明すると、「プロダクション品質を意識しているな」と映るでしょう。セキュリティ資格保有者でもあるので、**社内システムとの安全な統合（認証・権限、社内データの保護）**に配慮している点も触れると安心感を与えます。また吉川さん自身フルスタック経験があるため、**フロントエンドの使い勝手からバックエンドの技術選定、クラウドインフラまで一貫した理由付け**を示すことで高い評価を得られます。要は、「技術的によくできていて、実務でちゃんと使える」ことを示せば万全です。

佐藤 一憲（Kazunori Sato） - Google デベロッパーアドボケイト (AI/ML担当)

- ・**経歴・専門:** Google Cloudで**AI/ML分野のデベロッパーアドボケイト**を務め、Google本社の公式ブログ記事執筆やデモ開発をリードしてきた方です¹²。2016年から現在まで25本以上の技術記事を公開

し、その内容はJeff DeanやEric Schmidtといった著名人や主要メディアにも取り上げられた実績があります¹³。Google I/OやCloud Nextなど世界17か国のカンファレンスで登壇経験を持つ国際的スピーカーであり、X（旧Twitter）で2万人以上のフォロワーに日々AI/ML情報を発信する業界のオピニオンリーダーでもあります¹²。

- ・**関心技術・分野:** 幅広いAI/ML技術全般に精通していますが、特にクラウド上での機械学習サービス、TensorFlowなどのMLフレームワーク、そして近年は生成AI（大規模言語モデルや強化学習）に強い関心があります。自身がデモ開発を多数行っていることから、AIを使った新奇的なアプリケーションや開発者向けツールキット（Agent Development Kit等）にも詳しいです¹⁴。また「どうすれば開発者にAI技術を伝えやすいか」を常に考えている立場なので、技術の分かりやすい表現やデモのインパクトを重視する傾向があります。
- ・**プレゼンでのアピール:** 佐藤一憲さんには技術の先進性とデモの明快さをアピールしましょう。まず、最先端のAI技術を取り入れている点（例えば最新の大規模言語モデル、強化学習エージェント、自社開発の独自モデルなど）を強調すると、「最新のAIトレンドを押さえている」と評価されます。さらに、デベロッパーアドボケートとしてデモや説明の分かりやすさを重視するので、ユースケースを具体的に示すデモンストレーションを用意し、複雑な内部処理も簡潔な例えで表現してみてください。佐藤さんは多くの講演経験から良いデモの作り方を知っていますので、シンプルだが訴求力の高いデモ（例：社内の意思決定がAIエージェントですぐ解決する様子を短い流れで見せる）であれば強く印象に残るでしょう。技術的にはGoogleのAIサービスにも精通していますが、特定クラウドへの依存よりも汎用的にAIを活用するアイデアそのものを評価すると思われます。ですから、「このプロジェクトを通じて将来多くの開発者が社内外でAIを活用できる」という波及効果やビジョンを語ると、日々AI情報を発信する佐藤さんの共感を得られる可能性が高いです。¹²

まとめ: 各審査員のバックグラウンドを踏まえ、プレゼンでは技術スタックの選定理由やAIエージェントの独自性をそれぞれ強調するポイントが異なります。技術に偏りすぎず、「その技術で何を解決し、なぜ凄いか」を明確に伝えることが大切です。以上を参考に、審査員一人ひとりに刺さるキーマッセージを盛り込み、バランスの取れた発表資料を準備してください。健闘を祈ります！

参考資料: 審査員の経歴・プロフィール¹⁵²⁵⁷⁹；審査員の技術分野に関する発言・実績⁴¹⁶¹⁰¹² など。

¹ ² ³ ⁵ ⁶ ⁷ ⁹ ¹⁵ 第4回 Agentic AI Hackathon with Google Cloud

<https://zenn.dev/hackathons/google-cloud-japan-ai-hackathon-vol4?tab=judge>

⁴ 新技術を“個”で開拓し”役割”で推進する ゆめみの開発組織が挑戦し続けるための4つの制度 | ログミー Business

<https://logmi.jp/main/technology/329083>

⁸ コラム：グーグルのクラウドを支えるテクノロジー | CTC教育サービス 研修/トレーニング

<https://www.school.ctc-g.co.jp/columns/nakai2/index.html>

¹⁰ Zennのスパム自動検出事例が「第2回 生成 AI Innovation Awards」ファイナリストに選出 | クラスメソッド株式会社のプレスリリース

<https://prttimes.jp/main/html/rd/p/000000386.000014901.html>

¹¹ dyoshikawaさんの記事一覧 | Zenn

<https://zenn.dev/dyoshikawa>

¹² ¹³ ¹⁴ スピーカーの詳細: Google Cloud Next Tokyo 25

<https://www.googlecloudevents.com/next-tokyo/speaker/1725064/%E4%B8%80%E6%86%B2-%E4%BD%90%E8%97%A4>

¹⁶ スピーカーの詳細: Google Cloud Next Tokyo 25

<https://www.googlecloudevents.com/next-tokyo/speaker/1739583/%E9%99%BD%E5%A4%AA-%E6%B8%A1%E9%83%A8>